

## コラム 女性の働きやすさは会社の将来性を測るバロメータ (株) 南武

特殊油圧シリンダーの設計・製造を手がけ、製鉄用ロータリージョイントでは世界シェア3割を誇り、グローバルニッチトップ企業100選にも選定された(株)南武(東京都大田区)は、1998年に製造現場の技術職として初めて高卒の女性を採用し、以降、リーマンショックなどの非常時を除き、継続的に女性を採用してきた。現在、事務職を含めた女性社員の数は従業員の約4分の1に相当し、NC旋盤やマシニングセンターを巧みに操作する女性社員は“ドリルガールズ”と呼ばれ、同社の重要な戦力となっている。

同社が現場に女性を採用するようになったきっかけは、地元女子高から就職の面接に来た生徒に工場を見せた際、人手不足もあって現場に興味がないかどうかと尋ねたところ、「是非やってみたい」と関心を示してくれたこと。当初、ベテランもいる現場は若い素人の女性の採用に戸惑いを隠せなかったというが、女性は男性に比べて持続性があり、こつこつと正確に仕事を行うため失敗が少なく、今ではNC旋盤などの機械操作はむしろ女性に向いているのではないかと感じているという。

女性が製造現場で働くようになり、男性社会であったものづくりの現場が明るく清潔になったという。女性は5S運動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)に率先して取り組み、工具の取扱いも丁寧でソツがなく、コミュニケーション能力も高い。男性社員の意識も大きく変わり、職場での言葉使いも穏やかになり、服装も清潔になった。

また、同社では、結婚後も女性が働き続けることができる職場づくりに腐心している。技能や技術を継承するためにも、若い人達がものづくりの現場に入ってきてもらう必要がある。女性が働きやすい会社とは、すなわち若者が働きやすい会社であり、女性が活躍できる職場をつくるのが技能や技術の継承につながっていくと考えている。



写真：女性社員(“ドリルガールズ”)が作業する様子